



# ともに創ろう。 澄みわたる未来と、心はずむ暮らしを

～長期経営構想における環境分野の取組方針について～

阪急阪神ホールディングス株式会社

2025年7月

# ともに創ろう。澄みわたる未来と、心はずむ暮らしを

いま、気温上昇や自然災害の増加、生態系の異変など、地球環境が変化しつつあり、暮らしに影響が出始めています。

その中で、私たちが、今までもこれからも大切にしたいこと。  
それは、このまちに住む人や訪れる人が、  
“心はずむ喜び”と“環境との調和”を感じられる暮らしを、  
未来にわたり実現していくことです。

住む、楽しむ、働く、移動する…  
生活の様々な瞬間とつながる私たちのサービスをもっと、ずっと、環境に配慮していく。

利用するたび、心地よさやワクワクはもちろん、  
環境との調和、未来への貢献を実感し、また利用したくなる。  
そして、自分らしい選択と環境への配慮がどんどん積み重なって、未来がもっと澄みわたる。

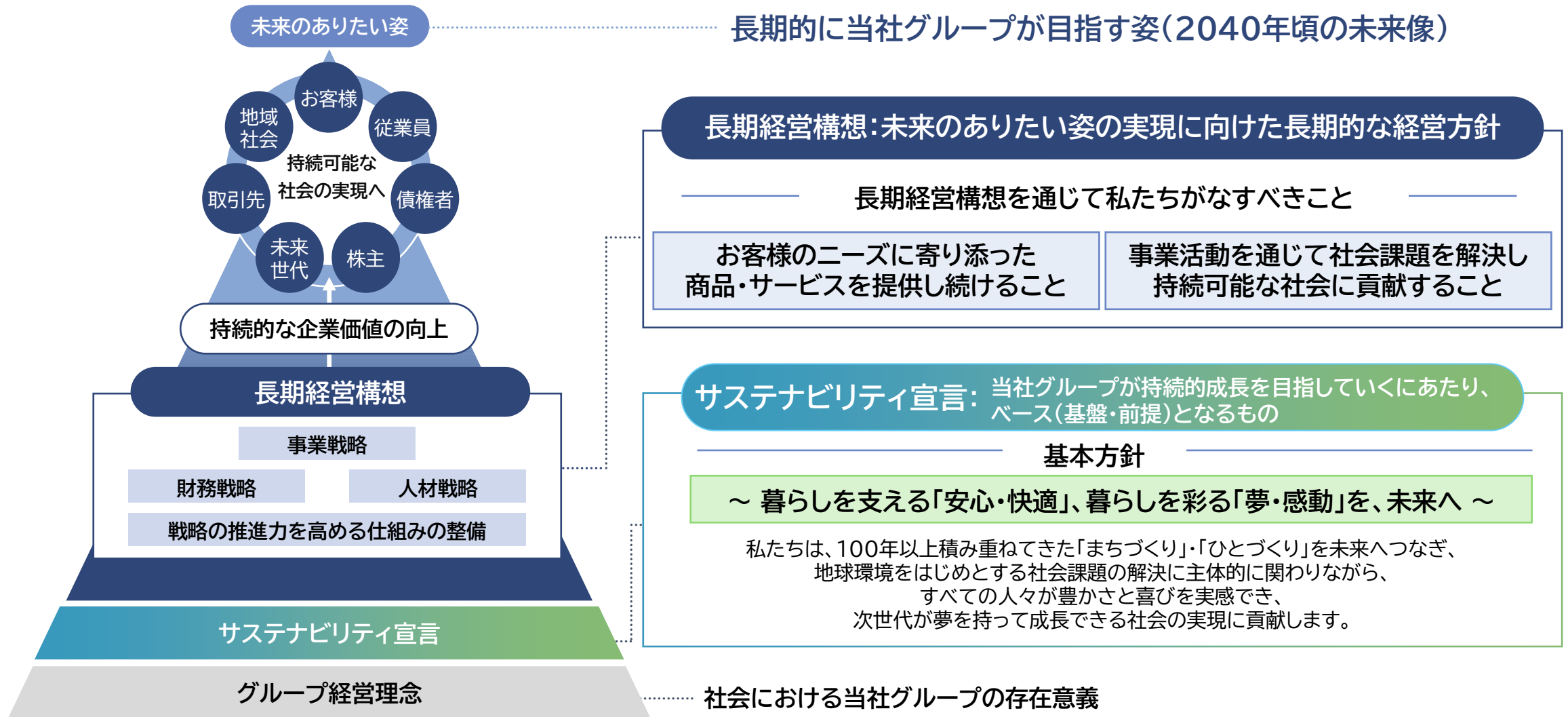
そんな、人と、環境と、未来とのつながりを感じられるまちを、  
皆さまと、ともに創り、歩んでいきたいと考えています。

# 目次

1. 長期経営構想の位置付けと戦略策定の考え方
2. サステナビリティ宣言における重要テーマ
3. 長期経営構想を通じた持続可能な社会の実現に向けて
4. 環境分野における取組の推進
5. 環境分野の取組で実現したいこと
6. 具体的な取組
7. KPIと目標

# 長期経営構想の位置付けと戦略策定の考え方

- グループ経営理念・サステナビリティ宣言をベースに、「未来のありたい姿」の実現に向けた取組を「長期経営構想」として位置付け、長期経営構想を通じて、持続的な企業価値の向上、ひいては、持続可能な社会の実現を目指します。



# サステナビリティ宣言における重要テーマ

重要テーマ	各テーマの取組方針	関連する領域	具体的な取組の方向性
1.安全・安心の追求	鉄道をはじめ、安全で災害に強いインフラの構築を目指すとともに、誰もが安心して利用できる施設・サービスを日々追求していきます。	S  	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 鉄道や営業施設における事故の撲滅と安全性の更なる向上</li> <li>② 防災・減災に向けた取組の推進と災害発生時の迅速かつ適切な対応</li> <li>③ さまざまな人々のニーズに配慮した、安心で快適な施設・サービスの充実</li> </ul>
2.豊かなまちづくり	自然や文化と共に、人々がいきいきと集い・働き・住み続けたいくなるまちづくりを進めます。	S    	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 良質な住環境の整備(優良な住宅の供給、緑地や公共スペースの整備、文化・教育施設などの充実)</li> <li>② 人の交流を生み出す商業・ビジネスエリアの整備・拡大</li> <li>③ 女性が働きやすく、子育てしやすい沿線環境の整備</li> <li>④ 高齢者の健康寿命の増進に向けた施策の推進</li> <li>⑤ 訪日外国人・在住外国人のニーズに対応したサービスの提供</li> <li>⑥ 大学や研究機関・ベンチャー企業・地域コミュニティ等との協業・連携強化</li> </ul>
3.未来へつながる暮らしの提案	未来志向のライフスタイルを提案し、日々の暮らしに快適さと感動を創出します。	S   	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自然と調和するライフスタイルを実現する商品・サービスの提案</li> <li>② 地域の活性化や文化振興につながる商品・サービスの提案</li> <li>③ 多様な価値観に応え、快適さや感動を生む商品・サービスの提案</li> <li>④ 次代を担う若年層のための商品・サービスの提案</li> <li>⑤ スポーツやエンタテインメントを通じた文化の創造と普及</li> <li>⑥ ICTイノベーションを活かした既存サービスの改善と新規ビジネスの創出</li> </ul>
4.一人ひとりの活躍	多様な個性や能力を最大限に発揮できる企業風土を醸成するとともに、広く社会の次世代の育成にも取り組みます。	S    	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 働きがいの向上および労働環境の整備</li> <li>② 健康経営の推進</li> <li>③ ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進</li> <li>④ 人権の尊重およびハラスメントの防止</li> <li>⑤ 次世代を育成する機会の提供</li> </ul>
5.環境保全の推進	脱炭素社会や循環型社会に資する環境保全活動を推進します。	E   	<ul style="list-style-type: none"> <li>① CO2など温室効果ガスの排出量の削減</li> <li>② エネルギー効率の改善(省エネの推進)</li> <li>③ 再生可能エネルギー(太陽光発電など)の活用</li> <li>④ 環境配慮型建物(グリーンビルディング)の拡大</li> <li>⑤ 廃棄物発生を抑止およびリサイクルの推進</li> </ul>
6.ガバナンスの充実	すべてのステークホルダーの期待に応え、誠実で公正なガバナンスを徹底します。	G  	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 企業統治の実効性・透明性の向上</li> <li>② コンプライアンス・腐敗防止の徹底</li> <li>③ 気候変動リスクを含めたリスクマネジメントの強化</li> <li>④ 各ステークホルダーの意見を踏まえた事業遂行</li> </ul>

# 長期経営構想を通じた持続可能な社会の実現に向けて

- 当社グループは、これまでも、さまざまなステークホルダーのニーズに寄り添い、社会全体に価値を提供してきました。
- これからも、新たな技術も取り入れながらサステナブルで良質な商品・サービスを提供し、お客様に選ばれ続けることで、社会に共感・共創の輪を広げていき、人々がサステナブルな行動を自然と選択できる社会の実現を目指していきます。

## 取組の考え方

サステナブルで良質な商品・サービスを提供し、お客様から選ばれ続けることで、共感・共創の輪を広げていく

### サステナブル経営の 6つの重要テーマ



お客様の  
ベネフィット



当社グループの  
提供価値

#### 安心感

社会・自然環境が変化する中でも、日々の暮らしの選択肢が狭まることを心配しなくて良い

#### 私好みに選べる

多様な選択肢の中から一番満足できる自分らしいものを選べる

#### 未来への貢献実感

共感し合える仲間と一緒に取り組むからこそ、より強く未来への貢献を実感できる

#### 一歩先の先進性

お客様のニーズに寄り添い、先進的でサステナブルな商品・サービスを提供する

#### 選択肢の多様性

「安心・快適」「夢・感動」につながる、当社グループらしい多様な選択肢を提供する

#### 共感・共創の機会

誰もが参画しやすく共感でき、さまざまな人々・コミュニティが共創できる基盤をつくる

今も未来も誰もが自分らしい生活を送れるように、  
サステナブルな行動を **自然と選択できる社会** を当社グループが実現していく

# 環境分野における取組の推進

- 長期経営構想において、ステークホルダーの関心が高い社会課題である「地球環境問題」について、脱炭素に向けた取組に加え、近年注目されている生物多様性・自然資本の保護や資源循環についても取組の方向性を明示し、事業活動を通じた社会課題の解決に取り組んでいきます。

## 脱炭素 サプライチェーンを超えた「社会全体の脱炭素化の推進」

ライフスタイルや価値観に合わせた環境配慮型の商品・サービスを提供することで、社会全体の温室効果ガス排出量を削減し、カーボンニュートラルに貢献する。

## 生物多様性 緑化・自然保護による「地域の魅力向上」

健康や心の豊かさ・地域の価値向上などウェルビーイングの充実につながる緑化・自然保護・生物多様性の保全を推進する。

## 資源循環 廃棄物の削減・リサイクルの促進を通じた「環境負荷低減と付加価値向上の両立」

廃棄物の削減に加え、資源の有効活用・循環を目指すリサイクル(水平リサイクル・アップサイクルを含む。)を促進するとともに、より質の高いリサイクルに努めていく。

## 全般 環境貢献活動への「参加機会の提供とコミュニティ形成の促進」

環境負荷の見える化による環境貢献行動の促進や、お客様参加型の環境貢献活動メニューの整備、活動を通じたコミュニティ形成を促進することで、共感・共創の輪を広げていく。

## KPI

- ① 当社グループにおける温室効果ガス排出量の削減率
- ② 電力の再エネ比率
- ③ サプライチェーンにおける温室効果ガス排出量(スコープ3)
- ④ 鉄道事業(阪急・阪神)の温室効果ガス排出削減貢献量

- ⑤ 自然の豊かさによる地域の魅力度
- ⑥ 特定地域の植物種数／生物種数

- ⑦ 産業廃棄物排出量(建設受注工事を除く)の連結売上高比率
- ⑧ 水平リサイクルやアップサイクル(PETボトル、廃油等)のプロジェクト数

- ⑨「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」等を通じた環境貢献活動への参加者数／市民団体助成数(累計)

# 環境分野の取組で実現したいこと(実現イメージ)

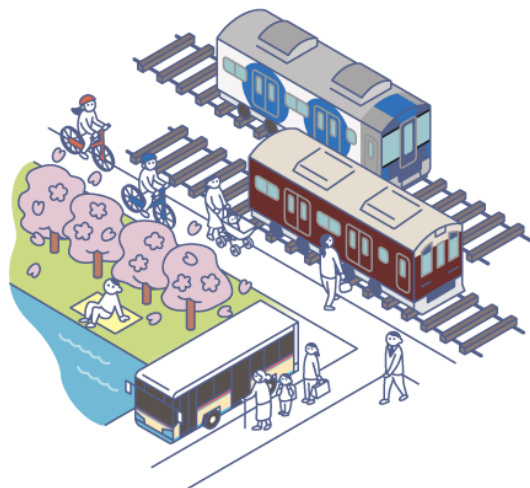


緑化・自然保護による  
「地域の魅力向上」

サプライチェーンを超えた  
「社会全体の脱炭素化の推進」

廃棄物の削減・リサイクルの促進を通じた  
「環境負荷低減と付加価値向上の両立」

# 環境分野の取組で実現したいこと：脱炭素



## ◆当社グループにおける脱炭素の推進

### ありたい姿

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、新しい技術を取り入れながら、着実に省エネに取り組むとともに、創エネルギー・再生可能エネルギー（環境価値）の活用を進め、温室効果ガス排出量を削減する。

### 取組例

- 省エネの推進（省エネ車両の導入等）
- 太陽光パネルの設置・コーポレートPPAの導入
- 再生可能エネルギー由来の電力の導入
- EVバスの導入、エコドライブの推進
- 環境配慮型建物（グリーンビルディング）の普及・拡大

## ◆モーダルシフトによる社会の脱炭素の促進

### ありたい姿

公共交通を軸としたまちづくりを推進し、鉄道を中心とした公共交通の利用を促進するとともに、駅までのラストワンマイルに便利なモビリティ（レンタサイクル・EVバス等）と組み合わせることで、移動による環境負荷の軽減に貢献する。

### 取組例

- 環境負荷の低い交通ネットワークの形成
- レンタサイクル・シェアサイクル

# 環境分野の取組で実現したいこと:生物多様性



## ◆緑地空間の形成

### ありたい姿

緑豊かなまちづくりを推進し、自然を身近に感じることで、住む人・働く人・訪れる人のウェルビーイングを高めるとともに、そのまちに集った人々のつながりが、新たな価値を創造する。

#### 取組例

- オフィス・商業施設・マンション等の緑化の推進
- グループ会社のノウハウを活かした生物多様性の修復・保全
- 生物多様性の保全への貢献の見える化



## ◆地域と協働した自然保護・ネイチャーポジティブの推進

### ありたい姿

地域と協働して自然保護・ネイチャーポジティブの取組を推し進めるとともに、それらの取組を通じて自然の価値の重要性や自然と触れ合うことの喜びを共有することで、取組の輪を広げていく。

#### 取組例

- 生物多様性の保全・教育に取り組む市民団体への助成
- 市民団体と協働した生物多様性の保全活動
- 市民参加型の取組の推進



## ◆廃棄物削減の推進

### ありたい姿

業務プロセスの見直しや従業員への啓発等を通じて廃棄物の発生を抑制するとともに、「廃棄物」を「資源」としてとらえ、リサイクルに取り組むことで、継続的な廃棄物の削減を実現する。

### 取組例

- グループ施設内における廃棄物削減の推進(フードロス削減等)
- プラスチックのリサイクル、脱プラスチックの推進
- 商業施設、駅舎等における中水・雨水の活用



## ◆水平リサイクル、アップサイクルによる社会の環境負荷低減

### ありたい姿

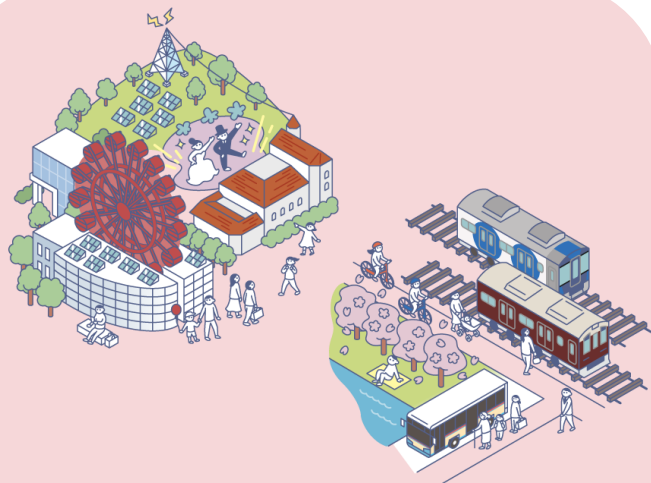
パートナー企業、お客様、地域社会と協働して水平リサイクルやアップサイクルの促進に取り組み、廃棄物の高付加価値化と回収効率向上につなげることで、社会のリサイクル率向上、ひいては環境負荷の低減に貢献する。

### 取組例

- PETボトル水平リサイクル促進
- 廃油の自社施設内でのリサイクル活用
- 廃食油回収によるSAF・バイオ燃料の普及
- 食品廃棄物の飼料等への利用

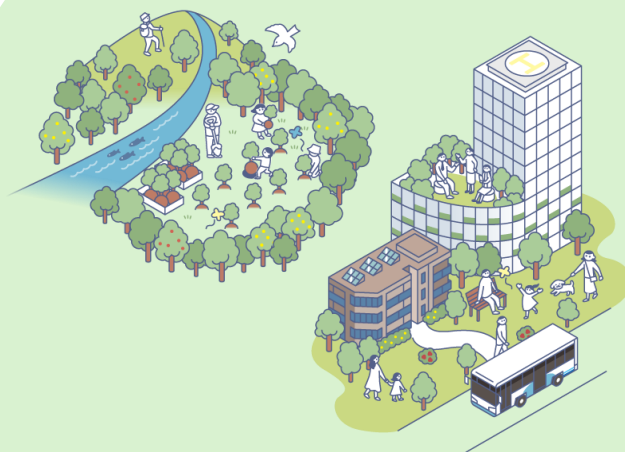
# 具体的な取組

各テーマにおける具体的な取組については、[阪急阪神ホールディングス ウェブサイト](#)でご紹介しています。



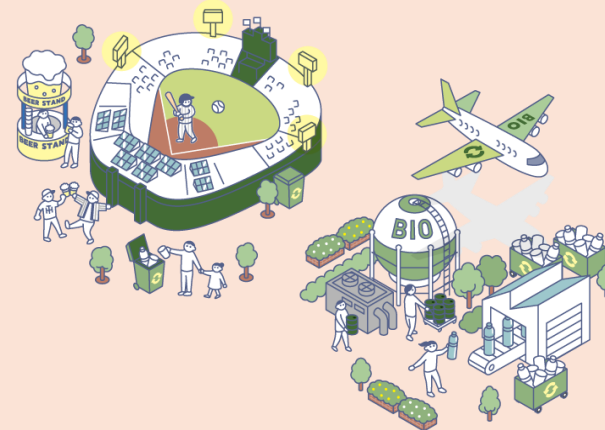
## 脱炭素

詳しくはこちら



## 生物多様性

詳しくはこちら



## 資源循環

詳しくはこちら



# KPIと目標(グループ共通)

取組の方向性		KPI	目標
脱炭素	サプライチェーンを超えた 「社会全体の脱炭素化の推進」	温室効果ガス(GHG)排出量 (Scope1・2)	2019年度比60%削減(2035年度) 実質ゼロ(2050年度) ※当社及び連結子会社
		電力の再エネ比率	90%以上(2035年度) ※国内のみ
		サプライチェーン上のGHG排出量 (Scope3)	算出を継続し、取引先と共に削減を検討
		鉄道事業(阪急・阪神)のGHG排出削減貢献量	モニタリングを実施 ※阪急電鉄及び阪神電気鉄道
生物多様性	緑化・自然保護による 「地域の魅力向上」	沿線住民へのアンケートを通じた、自然の豊かさによる地域の魅力度	モニタリングを実施
		特定地域(梅田・六甲山等)の植物種数/生物種数	モニタリングを実施
資源循環	廃棄物の削減・リサイクルの促進を通じた 「環境負荷低減と付加価値向上の両立」	産業廃棄物排出量(建設受注工事を除く。)の連結売上高比率	2023年度比10%削減(2030年度) ※当社及び連結子会社
		水平リサイクルやアップサイクル(PETボトル・廃油等)のプロジェクト数	着実な増加及びプロジェクトの質の向上 ※当社グループ
全般	環境貢献活動への 「参加機会の提供とコミュニティ形成の促進」	「未来のゆめ・まちプロジェクト」等を通じた環境貢献活動への参加者数/市民団体助成数(累計)	モニタリングを実施

# KPIと目標(事業別)

	KPI	対象	目標
脱炭素	鉄道車両の省エネ化に向けたVVVF車※1化率	都市交通事業	着実な増加を目指す
	駅照明※2のLED化率	都市交通事業	阪急:100%(2030年度) 阪神:100%(2030年度) 北急:100%(2021年度) 能勢:100%(2026年度)
	新築マンション※3におけるZEH化率(ZEH-M Oriented※4以上)	不動産事業	100%を継続(2024年度以降) ※他社との共同事業など一部の物件を除く。
	オフィス・商業等用途の大型ビル※5におけるグリーンビルディング等の環境認証※6取得率	不動産事業	100%

※1 従来の車両(モータに必要な電圧を抵抗器で制御するため無駄な熱エネルギーが発生)と異なり、モータの電圧や周波数を無駄なく制御することができる環境効率の高い車両のこと。

※2 バックヤードを除く

※3 各年度に販売するすべての分譲マンション及び賃貸を開始する賃貸マンション

※4 一次エネルギー消費量(2016年の省エネ基準で定められた「暖房」「冷房」「換気」「照明」「給湯」に係るエネルギー消費量)において、共用部を含むマンション全体の消費量を20%以上削減するマンションのこと。

※5 2020年度以降竣工・延床面積30,000㎡以上のビル(他社共有物件等除く。)

※6 DBJ、CASBEE、BELS、LEEDなどの環境認証制度

	KPI	対象	目標
生物多様性	生物多様性関連案件の取組件数	建設・環境事業	取組件数(整備・管理件数)が前年度実績と同等もしくは上回る
	阪神甲子園球場での飲食包材における脱プラ素材の使用率	エンタテインメント事業	プロ野球・高校野球:各70%(2030シーズン)
資源循環	阪神甲子園球場におけるプラスチックカップの回収率	エンタテインメント事業	70%(2030シーズン)
	阪神甲子園球場における飲食売店・グッズショップのレジ袋使用枚数の削減率	エンタテインメント事業	2019シーズン比 45%削減(2030シーズン)
	食品廃棄量	ホテル事業	2013年度比 50%削減(2030年度)
	客室におけるプラスチック使用製品の一人当たり提供量(特定20品目)	ホテル事業	2021年度比 70%削減(2030年度)
	連泊時の「No Cleaning」申請率(水使用量削減の促進)	ホテル事業	2019年度比倍増(2030年度)



阪急阪神ホールディングス株式会社

<https://www.hankyu-hanshin.co.jp/sustainability/>